

常光寺々報

2021年12月

報恩講法要

十二月四日(土)

十時～十二時

十三時半～十五時半

武蔵野大学 講師

ご講師 宮本 義宣 先生



空気循環のため、本堂は換気しながら暖房いたします。暖房効果は高くないと思われれますので、温かくご聴聞できるよう、各自ご準備ください。お経本とお念珠をお持ちください。引き続きマスクの着用もお願いいたします。時節柄お斎の用意は致しませんのでご承知おきください。

今年もまた親鸞聖人のご命日が巡ってまいりました。

ご講師の宮本先生にはお忙しい中を、お願いしてご出講いただきます。

ご自坊の高願寺さんは平成十七年までは「高元寺」と号しておられ、川崎で最も古くに寺子屋を開設しておられました。

先生は武蔵野大学通信教育部講師・中央仏教学院講師・東京仏教学院講師と精力的に活動されており、以前は龍谷大学大学院実践真宗学研究科講師や、本願寺派中央相談員もされておりました。

報恩講は親鸞聖人のご恩をしのび、阿弥陀如来のお救いをあらためて心に深く味わわせていただく法要です。

皆さんと共に勤めできることを願いつつ、ご案内をさせていただきます。

年忌法要早見表

来年(令和四年・二〇二二年)の年忌のご案内をさせていただきます。

- 一周忌・・・令和三年
- 三回忌・・・令和二年
- 七回忌・・・平成二十八年
- 十三回忌・・・平成二十二年
- 十七回忌・・・平成十八年
- 二十三回忌・・・平成十二年
- 二十七回忌・・・平成八年
- 三十三回忌・・・平成二年
- 五十回忌・・・昭和四十八年

修正会

一月三日十時半

時節柄、今年同様に短くお勤めさせていただきます、お斎のお餅も控えさせていただきますが、新年のお勤めを皆さんと共に参りさせていただきますと思います。

念仏相続

蓮如上人御一代記聞書【百二十一】

(現代語訳)に

一宗の繁昌というのは、人が多く集まり、勢いが盛んなことではない。たとえ一人であっても、まことの信心を得ることが、一宗の繁昌なのである。

だから、『報恩講私記』に、念仏のみ教えの繁昌は、親鸞聖人のみ教えを受けた人々の信心の力によって成就する」とお示しくださっているのである。とお示しくださっています。

また、何度か常光寺にもご出講いただいた稲城選恵和上は、報恩講の法話の中で、

「天間の今生きているということとは、あたかも一枚の紙の表だけを見ているようなものです。」

その裏には「死」ということが密着

しており、「生」の外に「死」はなく、「死」の外に「生」はあり得ません。人間の「生」はあたかも風前の灯火の如く、いかに科学が進歩しても次の瞬間も保証されていない存在であります。

ほんとうの宗教とは、この人間であることの存在に問いを持つことから始まりません。一人この世に出て、ただ一人去っていく。この真実を知れば、今ここの私の問題となり、じつとはしていられません。

この問題の正しい答えを明らかにしたのが「生死出づべき道」といわれる仏教であります。

親鸞聖人が示された浄土真宗のお念仏のみ教えは、とかく誰もが嫌う死の問題に対して、正しく超えて行く“道”そのものであるのです。』

と、教えていただきました。

コロナ禍の中で、死なないことに一生懸命になつて生活しておりますが、いかに生きるかとはいかに死ぬかということ。車の両輪のごとく片方だけ大事にしている、まっすぐには進めません。

生も死も、ともに大事に考えてまいりたいものです。

七百六十年もの歴史の中で、先人の方々が親鸞聖人のご命日の法要を「報恩講」として脈々と受け継ぎ、今日まで大切にお勤めしてきました。

この度のご縁も先人の方々のおかげさまであります。この法燈を絶やすことなく、お念仏の歡びを次の世代、その次の世代に伝えてまいりたいものです。